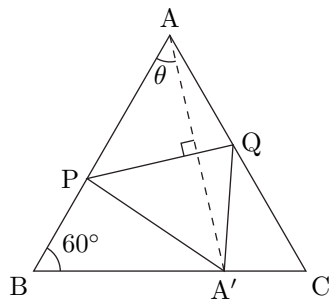


問題

図形への応用

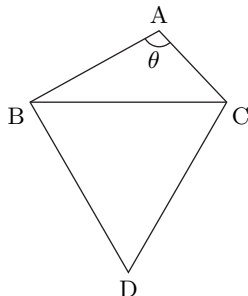
177 図のように，一辺の長さが2の正三角形ABCを頂点Aが対辺BC上の点A'となるように，辺AB上の点Pと辺AC上の点Qを折り目の端にして折り曲げる。 $\angle BAA' = \theta$ ($0^\circ \leq \theta \leq 60^\circ$)として次の問いに答えよ。



- (1) $\angle AA'B$ を θ を用いて表せ。
- (2) 線分 AA' の長さを θ の式で表せ。
- (3) 線分 AP の長さを θ の式で表せ。
- (4) 線分 AP の長さの最小値と，最小値を与える θ の値を求めよ。

(東邦大)

178 三角形ABCにおいて， $AB = a$ ， $AC = b$ とする。辺BCを一辺とする正三角形BDCを，三角形ABCの反対側につくるとき，以下の設問に答えよ。



- (1) $\angle BAC = \theta$ として，三角形ABCの面積 S_1 を a ， b ， θ を用いて表せ。
- (2) 正三角形BDCの面積 S_2 を a ， b ， θ を用いて表せ。
- (3) 四角形ABDCの面積 S の最大値と，そのときの θ の値を求めよ。

(日本歯科大)

179 長さ l の線分ABを直径とする半円周の弧の上を点Pが動くとする。 $AP + \sqrt{3}PB$ が最大となるときの $\angle PAB$ の大きさは であり，最大値は である。

(武蔵大)

チェック・チェック

図形への応用

177 (1) 親切的な誘導ですね。

(2) $\triangle AA'B$ において正弦定理を考えます。

(3) $\triangle APA'$ において正弦定理を考えます。

(4) (3) で準備が整っています。変数 θ が 1 か所にまとまるように式を変形しましょう。

178 (1) 三角形の面積の公式そのものですね。

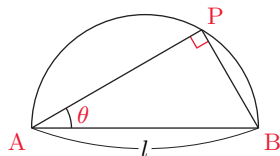
(2) BC の長さは， $\triangle ABC$ において余弦定理を用います。

(3) S は (1)，(2) より $\sin \theta$ ， $\cos \theta$ の 1 次式となります。

179 直径 AB に対する円周角 $\angle APB$ は $\frac{\pi}{2}$ なので

$\triangle APB$ は直角三角形です。

$\angle PAB = \theta$ とおけば， AP ， PB は l と θ で表すことができます。あとは，変数 θ が 1 か所にまとまるように式を変形します。



解答・解説

図形への応用

177 (1) 三角形の内角の和は 180° だから， $\triangle AA'B$ において

$$60^\circ + \theta + \angle AA'B = 180^\circ$$

$$\therefore \angle AA'B = 120^\circ - \theta$$

(2) $\triangle AA'B$ において，正弦定理より

$$\frac{AA'}{\sin \angle ABA'} = \frac{AB}{\sin \angle AA'B}$$

$$\therefore AA' = \sin 60^\circ \cdot \frac{2}{\sin(120^\circ - \theta)} = \frac{2\sqrt{3}}{\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta}$$

(3) $\triangle APA'$ は $AP = A'P$ の二等辺三角形であり， $\angle AA'P = \theta$ ， $\angle APA' = 180^\circ - 2\theta$ であるから，正弦定理より

$$\frac{AA'}{\sin \angle APA'} = \frac{AP}{\sin \angle AA'P}$$

$$\begin{aligned} \therefore AP &= \sin \theta \cdot \frac{1}{\sin(180^\circ - 2\theta)} \cdot \frac{2\sqrt{3}}{\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta} \\ &= \frac{1}{2 \cos \theta} \cdot \frac{2\sqrt{3}}{\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta} = \frac{\sqrt{3}}{\cos \theta (\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta)} \end{aligned}$$

(4) (3) の分母が最大となるとき， AP の長さは最小となる。

$$\begin{aligned} \cos \theta (\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta) &= \frac{\sin 2\theta}{2} + \sqrt{3} \cdot \frac{1 + \cos 2\theta}{2} \\ &= (\sin 2\theta \cos 60^\circ + \cos 2\theta \sin 60^\circ) + \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= \sin(2\theta + 60^\circ) + \frac{\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

$0^\circ \leq \theta \leq 60^\circ$ より， $0^\circ \leq 2\theta \leq 120^\circ$ すなわち $60^\circ \leq 2\theta + 60^\circ \leq 180^\circ$ であるから
 $0 \leq \sin(2\theta + 60^\circ) \leq 1$

よって

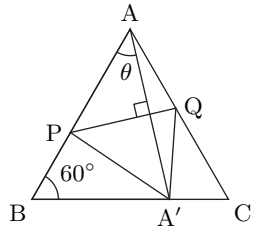
$$AP = \frac{\sqrt{3}}{\sin(2\theta + 60^\circ) + \frac{\sqrt{3}}{2}} \geq \frac{\sqrt{3}}{1 + \frac{\sqrt{3}}{2}} = 4\sqrt{3} - 6$$

となり， AP の最小値は $4\sqrt{3} - 6$ であり，このときの θ は

$$\sin(2\theta + 60^\circ) = 1$$

より

$$2\theta + 60^\circ = 90^\circ \quad \therefore \theta = 15^\circ$$



$$178 \quad (1) \quad S_1 = \frac{1}{2} ab \sin \theta$$

(2) $BC = c$ とおく。△ABC において余弦定理を用いると

$$c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta$$

さらに，△BCD は正三角形なので

$$\begin{aligned} S_2 &= \frac{1}{2} c^2 \sin 60^\circ = \frac{\sqrt{3}}{4} c^2 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta) \end{aligned}$$

$$(3) \quad S = S_1 + S_2$$

$$\begin{aligned} &= \frac{1}{2} ab \sin \theta + \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta) \\ &= ab \left(\frac{1}{2} \sin \theta - \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta \right) + \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2) \\ &= ab \left(\sin \theta \cos \frac{\pi}{3} - \cos \theta \sin \frac{\pi}{3} \right) + \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2) \\ &= ab \sin \left(\theta - \frac{\pi}{3} \right) + \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2) \end{aligned}$$

$0 < \theta < \pi$ より $-\frac{\pi}{3} < \theta - \frac{\pi}{3} < \frac{2}{3}\pi$ だから， S は

$$\theta - \frac{\pi}{3} = \frac{\pi}{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{5}{6}\pi \quad \text{のとき，最大値} \quad ab + \frac{\sqrt{3}}{4} (a^2 + b^2)$$

をとる。

179 $\angle PAB = \theta$ とおくと， $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ である。

円周角の定理より $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ だから，

$$\cos \theta = \frac{AP}{l} \quad \therefore AP = l \cos \theta$$

$$\sin \theta = \frac{PB}{l} \quad \therefore PB = l \sin \theta$$

したがって

$$\begin{aligned} AP + \sqrt{3}PB &= l(\cos \theta + \sqrt{3} \sin \theta) = 2l \left(\sin \theta \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} + \cos \theta \cdot \frac{1}{2} \right) \\ &= 2l \sin \left(\theta + \frac{\pi}{6} \right) \end{aligned}$$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より $\frac{\pi}{6} < \theta + \frac{\pi}{6} < \frac{2}{3}\pi$ だから

$$\theta + \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \angle PAB = \frac{\pi}{3} \quad \text{のとき，最大値} \quad 2l$$

をとる。

